

大豆栽培管理情報 (第2号)

令和2年5月20日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 播種作業のポイント ～播種時期別の目標栽植本数を確保～

- ◎ 耕起、碎土・整地、播種、作溝、除草剤散布の一連の作業は、好天日に必ず圃場が乾いた状態で行い、1日で終える。
- ◎ 適正な播種量や播種深さとなるよう作業前に播種機を調整する。
- ◎ 播種深さは3cmを目安に種子が露出しないようにするとともに、人がゆっくり歩く程度の速度で播種する。
【速度の目安：30a圃場で70分程度(3連播種機の場合)】

(1) 播種時期別の栽植本数と播種量・播種機の設定目安

品種	播種時期	目標栽植本数 (本/10a)	播種量(大粒) (kg/10a)	スプロケット		目皿
				目皿側	車輪側	
えんれいのそら	5月下旬～6月上旬	14,000～16,000	5.6～6.4	10～11	13	B-2
	6月中旬	16,000～18,000	6.4～7.2	9～10	14	B-2
	6月上旬～中旬	16,000～18,000	6.4～7.2	13	10	B-22
シュウレイ	5月下旬～6月上旬	12,000～15,000	4.9～6.2	10～11	11	B-3
	6月中旬	15,000～18,000	6.2～7.4	10	13～14	

「えんれいのそら」は百粒重が大きいので、最初の圃場で播種量が十分に入ったか必ず確認しましょう。

※大麦跡等で目標播種量が入らない場合、目皿はB-22を使用する。

注) 百粒重(大粒) (えんれいのそら:35.8g、シュウレイ:37.0g)、苗立率90%で播種量を計算

- (2) 大麦跡で大豆を作付される方は、大麦収穫後すぐに播種できるように準備しておきましょう。



2 基肥量 ～土壌や栽培条件に応じた基肥量の施用～

肥料名 (N:P:K)	圃場条件	施用量(10a当たり)
		側条施肥
BB084 (10:18:24)	普通田	20kg
	砂壤土、地力の低い田	30kg

注) 麦跡の場合は、上記に硫安 10kg を追加する。

栽培技術のポイントを
確実に実施し、収量向上をめざそう！



3 播種直後の除草剤 ～雑草や圃場条件に応じた除草剤の使用～

薬剤名	トレファノサイド 粒剤 2.5	トレファノサイド 乳剤	サターンバアロ 粒剤	サターンバアロ 乳剤	ラクサー 乳剤	プロールプラス 乳剤
使用量(10a当たり)	4～6kg	200～300ml	4～6kg	600～800ml	400～600ml	400～600ml
希釈水量	—	100ℓ	—	70～100ℓ	100ℓ	100ℓ
使用上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・播種直後、土壌表面に散布する(極端に乾いた土壌に散布した場合、除草効果が劣るので注意する)。 ・出芽前に散布する(大豆の出芽後に散布すると大豆が枯死するので注意する)。 ・帰化アサガオ類の発生が懸念される圃場には、サターンバアロ粒剤・乳剤を使用する。 ・ラクサー乳剤やプロールプラス乳剤は、散布直後の多量降雨で薬害が生じる恐れがあるので、天候を見極めて散布する。 					

4 排水溝の点検・手直し ～生育量の確保には初期の排水対策が重要～

- ・圃場に水が溜まらないよう、播種後には必ず排水溝を点検し、額縁排水溝や排水口に確実に連結しましょう。
- ・降雨後にも溝の連結や排水溝の崩れの手直しを行い、雨水を停滞させないようにしましょう。



排水溝を連結し、水尻へつなげる